

年中さんを上手くBVS隊に取り込んでいる団委員長さんに教えていただいた内容です。
是非、浜松地区の各団も参考にしてください。

未就学児用に作ったビーバーノートは、木の葉シールを貼ることだけを目的に作ったもので、
ビーバーノートをコピーし、ラミネート加工しています。

しかし、現在は使用していません。BVS隊長に、ノートのことと一緒に、年中さんを活動に加えたこと
についての感想を聞いたのでお伝えします。

1) 年中を活動に入れた経緯

- ・3人姉弟の姉2人がカブ・ビーバーで、年中の弟がいつも活動についてきていた。見ているだけでは飽きちゃうし、可哀そうだから一緒に仲間に入れようとしてみたが、一人だけではどうしても浮いてしまって、当人も楽しそうではなかった。
- ・私(団委員長)の孫も年中だったので、2人なら仲間もいて心強いだらうと2人一緒に参加させるようにしたら、結構楽しそうに活動し始めた。
- ・その様子を見たカブの保護者が、年中の弟を入れたいと申し出てきて3人になる。幼稚園の友達の子も入りたいとの希望があり、春には4人となった。

2) ビーバーノート

- ・当初は、「木の葉シールを配るのでそれを貼るノートが必要」とのことで、ノートの表紙とシールを貼るページだけの特製ノートを作った。まだ字も読めないだらうから、「やくそく」や「木の葉細目」は必要ないだらう、との判断からでした。また、歌集も連盟歌などよく歌う歌の歌詞をコピーして渡していました。
- ・しかし、半年・1年やって分かったことが、年中のスカウトが、「自分のノートはみんな(1年・2年)とは違う!」「みんなは持っているのに、なぜ自分にはくれないのか?」との疑問や不満を持っていたことが分かった。
- ・そのため、現在は年中/年長も関係なく、正規のビーバーノート・歌集を配り、全く同じ扱いをしているそうです。当然活動期間が長くなります(2年間で3年半くらいになる)ので、シールを貼るページが埋まってしまうため、ページをカラーコピーして配布しています。
- ・歌集も、読めなかったスカウトもいたが、みんなと一緒にページを開き、真似をして歌っている間に覚えて歌えるようになった。

3) 活動

- ・活動では「体力差」が一番懸念していた。秋に行うナイトハイクでは、小学生10Km、園児は中間点の5Kmをゴールとしてやりましたが、年中から「小学生と同じように歩きたい」と言い出したので、やれるとこまでやらせてみよう、と延長したら結局最後まで完歩し、全員が揃ってゴールインすることが出来ました。
- ・また、冬にはカントリースキーを行います。園児には無理と判断して雪遊びの別メニューをさせました。後日談で、帰宅後「スキーと一緒にやりたかった」と泣いていたことを保護者から聞き、次の年はダメもとで同じカントリースキーをやらせることにしました。結果、坂を上ったりするのは無理でしたが平地を滑って歩くことは小学生と同じように、あるいは動きの鈍い小学生より上手にこなす園児もいました。(勿論、ペース配分や休憩回数、フォローする指導者・保護者の増員配置などの配慮は必要になります)

<BVS隊長の年中スカウトを扱っての感想です>

- ・年中だから、と特別な配慮をするのではなく、小学生と同じように扱うほうが小学生・年中(園児)の双方にとって混乱が少なく、指導者も活動を進めやすい。お兄ちゃん・お姉ちゃん(小学生)が楽しそうにやっていると、年中(園児)も釣られて楽しみ、結果として同じようにやり切ってしまうようになります。
- ・小学生でも身体が小さい子・体力のない子、園児でも大きい子と様々です。「上手に出来たとか出来なかった」ではなく、可能性を信じて「楽しく遊んでいたら知らず知らずそこそこのことが出来るようになっていった」ことを実体験させられるプログラムを作ることを心掛けています。

ご参考になれば幸いです。(静岡地区の団)